参考資料２
看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂
に関する連絡調整委員会（第３回）
Ｒ６.６.２０

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会（第２回）における主な意見について

〇モデルコアカリは基礎教育に関するものであるが、どこかで将来を見通した卒後の内容に切り替わるような形で示すのか。
→事業③④で取り組んでいるところである。段階で示す。

〇第 4 階層の数が 1130 と多いのでスリム化が必要である。

〇事業２の成果である「資質・能力の 11 分類」について、この 11 の重みづけはどうなっているのか。全て同じように見えるが、今後どのようにしていく予定なのか。資料４のボリュームだと、PS のウエイトが大きい。
→事業 3, 4 のところでブループリントで示していくところが重みづけになる。

〇11 の資質・能力案については、ネーミングがこれでよいのか、議論が必要である。例えば「PS：専門知識に基づいた問題解決能力」は表現が狭すぎる。専門知識は問題解決のためだけではなく、色々な場面で必要となる。

〇指定規則や国家試験との関連について、看護の場合は養成所もあるので、それらとの観点からも整理されることを期待する。基礎教育のモデルコアカリであり、免許を取るところまでの内容かと思う。

〇実際にコアカリが決定されて各大学で運用していくとなると、そこまでにかなり準備していくことになる。各大学が一緒に参画してつくり上げていく過程が必要。

〇このモデルコアカリを各大学が実際にやっていくとなると，コミットメントがないと，何かややこしい話が来たという受け止めになる。何らかの形でできるだけ多くの大学の先生に、作成プロセスで関わってもらう、意見をもらう機会を計画的につくることが重要だと思う。

〇語尾について、医学では「説明できる」「概説できる」は「理解している」に変更した。

〇第 1 層のところで、看護職とは何か、国民にとって見えやすいものとなるとよい。看護らしさを出す。